

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	環境振動性能評価小委員会		主 査 名：横山 裕 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：濱本 卓司
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境振動にかかわる最新の研究、および実務の動向に関する情報収集や、国際基 規準(案)にかかわる審議などを行う。また、環境振動評価の現状や問題点の把握、 および課題の抽出を行い、今後の環境振動評価のあり方を模索するとともに、環 境振動に関する性能評価手法の学会会員への普及を図る。</p> <p>以下に、具体的な活動テーマを記す。</p> <p style="padding-left: 2em;">品確法における環境振動としての提言 群としての環境振動評価の提言 耐震(耐風)安全性以外の守備範囲拡大に関する提言</p>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>石川孝重(日女大)、植松武是(道立北方建築総合研究所)、内田季延(飛鳥建設)、川久保政茂 (円石コンサルタント)、小泉達也(大林組)、新藤 智(法大)、鈴木雅靖(鹿島建設)、塚越治 夫(日建設計)、野田千津子(日女大)、花里利一(三重大)、濱本卓司(武工大)、益田 勲(日 本交通技術)、松本泰尚(埼玉大)、森下真行(前田建設)、横山 裕(東工大)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2008 年度予算	75,000 円	ホームページ公開の有無：環境振動運営委員会の HP 内に議事録など公開 委員会 HP アドレス：環境振動運営委員会の HP よりアクセス	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナ ー・研究会・見学会等)	<p>1. 第 27 回環境振動シンポジウム 参加者数 約 90 名</p> <p style="padding-left: 2em;">床仕様と振動性能・品確法の性能項目への提案・ 顧客の価値観に基づいた振動性能ランクの提案</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>1. 2008 年度は、品確法に環境振動を取り込むための枠組みの整備が、活動の中 心となった。その結果、対象とする振動が限られてはいるものの、床振動の 程度を簡便に予測する方法を確立するとともに、振動性能ランクを提案する など、第一段階としての目標はおおむね達成した。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 2008 年度に発足した設計法に関する小委員会と連携を取り、性能に基づく設 計法の確立にむけて、当小委員会の成果を活用してゆく必要がある。</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共
通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>1. 品確法に環境振動を取り込むための第一段階として、歩行により発生する床振動を対象に具体的検討を行い、設計図書程度の情報から床振動の程度を簡便に予測する方法をおおむね確立するとともに、顧客の価値観に基づいた振動性能ランクを提案した。これらは、いずれも、品確法のみならず、性能に基づく設計法を実践するために必要な具体的なツールの一例と位置付けられるものである。これらの成果は、2009年1月19日に開催された第27回環境振動シンポジウムにて発表した。</p> <p>2. これまでおもに個々の建築物単位でなされてきた環境振動の評価を、建築物を群としてとらえ地域単位で行うことの必要性、重要性を議論し、類似する観点からなされた先行研究の紹介や、技術的課題に関する具体的な情報交換などを行った。</p> <p>3. 環境振動で新たに取り扱うべき課題として、設備機器をはじめ様々な発生源から発生する低周波音(振動)に関する建築的な対応方法の整理、ならびに地震時に超高層建築物で長時間に渡って発生する長周期大振幅振動下での居住者の反応や行動特性の把握などを抽出し、現状における問題点の把握、設計に反映させられるデータの蓄積、さらには安全性、快適性からみた評価方法確立の必要性やそのための課題などについて議論した。</p> <p>なお、以上の成果の概要は、当小委員会のホームページで公開する予定である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。